



## VMware HorizonとAirWatchにより、社内外を問わず、安全かつ快適に業務ができるモバイル環境を構築 高い機動力を備えたワークスタイル変革を実現

### 課題

- ・ビジネス環境の変化に柔軟に対応するためのワークスタイル変革
- ・業務系アプリケーションを利用するPC端末のパフォーマンス低下
- ・社外での業務生産性を高めるための端末環境の整備
- ・タブレット端末の持ち出しにおけるセキュリティの強化

### ソリューション

PC 端末の切り替えに際して、VMware Horizonを採用して関連会社8社を含む9社の端末約900台を仮想デスクトップ化。サーバVDI(Windows ServerをデスクトップOSとして利用する方式)を採用することで、低コストでの導入を実現。また、タブレット端末(iPad)を用いて外出先で業務を行うために、デバイス、アプリケーション、メールの包括的な管理を実現するAirWatchを導入し、メールアプリケーションをカプセル化することで、機密性の高い営業情報の流出を防ぐセキュリティ体制を確立した。

### 導入効果

- ・端末のパフォーマンス向上による生産、物流業務の効率化
- ・PC 端末のセットアップ作業がなくなり、現場の業務と兼務していた担当者が本来業務への専念が可能に
- ・モビリティが向上し、顧客対応や提案レベルが向上
- ・タブレット端末やアプリケーションの安全な管理で、顧客からの信頼を獲得
- ・承認やメール返信などの管理職のレスポンスが向上

### 導入環境

- ・VMware Horizon
- ・AirWatch by VMware
- ・VMware vSphere with Operations Management

自動車のエンジンやトランスミッションなどに用いられるアルミダイカスト製品の製造・販売を手がける株式会社アーレスティ。IT環境の強化による生産性向上に取り組む同社は、従業員の「ワークスタイル変革」を目的にVDIソリューションであるVMware Horizonと、モバイルデバイスマネジメントソリューションのAirWatchを導入。デスクトップ環境のパフォーマンス強化と同時に、製造部門における業務効率を大幅に向上。さらにタブレット端末を用いた業務を通じて、営業担当や管理職の意思決定の迅速化、セキュリティレベルの強化による信頼の獲得などを実現しています。

### 生産、営業の現場からの声を受けてワークスタイル変革の推進を決断

アルミダイカストメーカーの大手として、自動車、産業機器などの分野でものづくりを支えるアーレスティ。近年は業務を支えるIT環境の整備にも注力し、海外拠点を含めたより戦略的なIT活用を推進しています。ITシステム部が主体となって環境の見直しを進める中で、新たなITのチャレンジとして掲げていたのが従業員のワークスタイルの変革でした。ITシステム部部長の高橋新一氏は「営業部門には以前からノートPCを配布し、顧客先での提案や出先でのメールチェックなどに利用してきました。しかし、ユーザーからは重くて持ち歩くのが大変というような声も寄せられており、どこでも手軽に仕事ができる環境が求められていました。特に、タブレット端末導入の要望は多く寄せられていました」と振り返ります。

一方、生産、販売、購買などの業務部門においても、既存のPC端末に対するパフォーマンスなどの改善要望が寄せられていました。そこで同社は、Windows XPのサポート終了を機にユーザーのIT環境を刷新し、従業員の業務効率向上を目的としたワークスタイル変革の推進を決断しました。

### 解決策としてのVDIを実現するHorizonと安全なモバイル環境利用のためのAirWatch

アーレスティは、その推進を行うための最初のステップで、VDIソリューションを採用することを決定しました。VMwareを含む、2社の仮想化製品を比較検討した結果、最終的に同社はVMware Horizonを選択します。

「既存の業務アプリケーションがすべて問題なく動作した点は、Horizonを採用した大きな理由の1つです。また、コスト削減のためにサーバVDI(Windows ServerをデスクトップOSとして利用する方式)の採用も要件とする中、Horizonなら、サーバOSで稼働しないアプリ

があったとしても、ThinAppでアプリケーションを仮想化することで回避できる安心感もありました」と高橋氏は話します。

さらに、同社は、社外での活動が多い営業担当や管理職を対象にiPadの本格活用を決定します。しかし、そのモバイル環境をセキュアに社外で利用させるには、適切なソリューションが不可欠であり、同社はAirWatchを採用しました。

「社外で利用するからにはメールアプリケーションをコンテナ化し、デバイス上にデータを残したり、他のアプリケーションで添付ファイルを開いたりできないようにすることが重要でした。また、セキュリティポリシーを設定して紛失時には情報を消去する機能も必須で、これらの要件をすべて満たすソリューションはAirWatch以外にありませんでした」（高橋氏）

### 取引先との信頼にもつながら高度なセキュリティ対策とデバイス管理

Horizonの導入は、2014年8月からスタート。11月からは約100名を対象にパイロット導入を開始し、2015年1月から約900名が仮想デスクトップの利用を開始しました。その後、2015年1月から3月にかけてAirWatchの導入を行い、現在は営業部門20名、管理職10名にiPadが配布されています。

本社を含む9社への導入となった今回のプロジェクトについて、高橋氏は「ITシステム部から今回のプロジェクトに割ける人員が2名とい



株式会社アーレスティ  
ITシステム部  
部長  
高橋 新一氏

「社外に持ち出したモバイルデバイスとアプリケーションのセキュリティレベルを高めることを重視して、モバイルマネジメントソリューションを検討した中で、デバイス、アプリケーション、メールのすべてを包括的に管理できる製品は AirWatch 以外にありませんでした」

株式会社アーレスティ  
高橋 新一 氏

### カスタマープロフィール

1938年(昭和13年)の創業以来、自動車のエンジン、トランスミッション、足回り、ボディなどに用いられるアルミダイカスト製品の開発・製造・販売を手がける。ほとんどの国内大手自動車メーカーと取引があり、ダイカスト製品では国内はもとより海外でもトップクラスのシェアを獲得している。自動車以外でも産業機械や建築材料などの分野において、ものづくり全般を支援。自社開発製品のアルミダイカスト製フリーアクセスフロア「モバフロア」は、オフィスやコンピュータールーム、クリーンルームなどの床下に採用されている。

う少数人数の中、本社の事業部と関連会社から最低1名ずつ選出し、アプリの棚卸しや各社への展開をチーム全体で進めたことが、スムーズな導入につながりました。また、VMwareのコンサルティングサービス(PSO)の支援を受けたおかげで、VMware製品に対する技術的なノウハウもクリアになりました」と語ります。導入コストについては、サーバVDIの活用とXP 端末のハードウェアの転用により、Windows 7のPC 端末の総入れ替えと比較して、投資の回収が容易になっています。

HorizonとAirWatchの導入は、業務部門の生産性向上とモビリティの強化をもたらし、目指していた「ワークスタイル変革」が実現しました。生産性の向上については、特に工場の現場における生産管理システム利用時の動作パフォーマンス向上によって、製品の出入庫における実績集計、棚卸しにおける実在庫と論理在庫の突合作業時間が大幅に短縮されるなど、生産・物流の業務全般でのスピードアップ効果が現れています。また、工場の現場では、PC 端末の管理を各部門や関連会社の中でPCに詳しい人が業務と兼務で担当していましたが、Horizonによってその管理は不要となり、担当者は本来の業務に集中できるようになりました。

モビリティについては、営業担当者がいつでもどこでもクイックに対応できるようになり、顧客対応のレベルは飛躍的に向上しています。モバイル環境のセキュリティレベルも格段に高まり、「自動車メーカーとNDAを結んだうえで預かる新製品情報、生産情報などが多数ある中、適切なセキュリティ環境でデバイスやアプリケーションを管理していることをオープンにすることで、お客様からの信頼獲得につながっています」と高橋氏は評価します。

出張が多い管理職もiPadを持ち歩くことで、どこからでも承認作業ができるようになり、業務の停滞を招くことがなくなりました。iPadは自宅への持ち帰りも許可しているため、管

理職はいつでも必要に応じてメールに返信するなど、業務のレスポンスが大幅に向上しています。この管理職のワークスタイル変革について、高橋氏は次のように強調します。

「海外に出張する際にも、iPadが1台あればメールはAirWatchで返信し、国内と変わらない環境で業務ができます。ネットワークについてもVDIならWANを使わず画面転送だけで済むので、レスポンスに気を遣うこともありません。実際に私自身が5カ国で利用してきた中で、その有効性を実感しました」

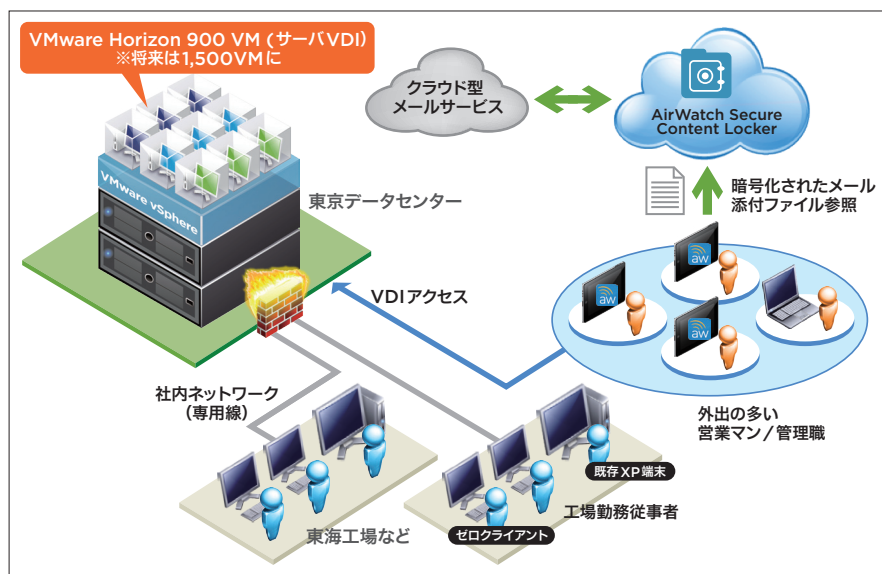
### スマートフォンからのメールアクセスなど個人端末を業務で利用するBYODも検討

VDIの導入プロジェクトは現在第2フェーズに移行し、2015年9月までに残りのPC 端末約600台をVDIに移行し、10月からは特殊用途を除いて関連会社を含む9社の全端末(約1,500台)がVDIに切り替わる予定です。iPadについては営業担当者への配布を拡大し、約60台まで台数を増やす計画です。そして、国内での導入に留まらず、今回の成功ノウハウを活かし、海外への展開も視野に入れています。

また、個人のデバイスを業務で利用するBYODも検討中で、業務で利用する場合はタブレットからのVDIへのアクセス、メールのみならAirWatchを利用したスマートフォンからのアクセスと、用途に応じた活用を検討しています。

さらに、現在は事業継続性強化もチャレンジであり、それにあたっては、システムのDR先としてVMware vCloud Airの活用の検討を進めています。

「ビジネス環境が変化し、業務の効率化が求められる中、今後もVMwareのソリューションをITの変革に活用していきます」と高橋氏が語るように、アーレスティの革新的な試みは、VMwareのソリューションとともにさらに歩みを進めていこうとしています。



図：アーレスティが推進するAirWatchを活用したワークスタイル変革

